

## 大台ヶ原の利用に関する課題

## 1. 利用に関する課題の把握

大台ヶ原の利用特性、実態調査の結果を受けて、大台ヶ原の自然環境への負荷を与える可能性のある利用上の課題は次表の通りである。

表1 利用に関する課題

自然環境の損傷タイプ	損傷の原因となる可能性が考えられる利用行動	
	人	車両
植生の退行・裸地化	歩道以外への立ち入り	路肩駐車
植物の生育環境への影響	—	アイドリング(渋滞、客待ちのバス等)
希少種等、植物個体数の減少	植物の採取	—
動物の採餌環境への影響	ゴミの投棄、シカへの給餌	アイドリング(渋滞、客待ちのバス等)
動物への病気の伝染等	ペットの持ち込み(糞・病気)	—
希少種等、動物個体数の減少	動物の採取	アイドリング(渋滞、客待ちのバス等)

## 2. 利用対策に向けた課題の整理

大台ヶ原における課題となる利用行動をその原因の視点から整理した。

表2 課題となる利用行動の原因

			①理解不足	②過剰利用	③利用対策の必要性
人	歩道以外への立ち入り	昼食・休憩	●	●	●
		歩道以外の歩行	●	●	●
		展望・写真	●	—	●
		ペットの持ち込み	●	—	—
		バーナー等の使用	●	—	—
		ゴミの投棄	●	—	—
		シカへの給餌	●	—	—
		動植物の採取	●	—	—
	車両	路肩駐車		●	●
アイドリング		渋滞によるもの	—	●	●
		客待ちのバス等	●	—	—

### ①利用者の理解不足による自然環境への負荷

利用に関する課題の多くは、利用者のマナーの範囲で改善が期待できるものである。また、多くの場合は、利用者が全く罪悪感を持たずに無意識にとっている行動である。

これは大台ヶ原の自然環境に関する理解の不足、利用者の行動が自然環境に与える影響について理解の不足などが原因と考えられる。

### ②過剰利用による自然環境への負荷

一時に大量の乗用車が集中すると路肩駐車が発生したり、渋滞の結果として長時間のアイドリングが発生する場合がある。また、歩道以外で休憩をとる場合がある。

これらは現在の利用の容量をオーバーした入込みが原因と考えられる。

### ③“自然公園”としての利用対策の充実

歩道以外に立ち入って歩行する行動のなかには歩道の段差やぬかるみを避けるための行動が含まれている。

また、過剰利用による自然環境への負荷と表裏の関係にあるが、必要に応じた休憩スペース、展望空間等のあり方の検討などのハード面の利用対策の検討、駐車場の容量をオーバーする入込車両の分散誘導を図るなどソフト面でも利用対策の検討が求められる。